



2019年10月1日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 U M N フ ァ ー マ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 平 野 達 義
(コード番号：4585 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 財 務 部 長 橋 本 裕 之
電 話 0 4 5 - 5 9 5 - 9 8 4 0

塩野義製薬株式会社との資本業務提携に係る 第4回開発マイルストーン達成確認に関するお知らせ

本日、当社は、2017年10月31日付にて締結した塩野義製薬株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：手代木 功）との資本業務提携契約（以下、「本資本業務提携契約」といいます。）に定められた半年毎の成果達成状況に基づき、第4回開発マイルストーン条件を達成したことを、塩野義製薬株式会社より確認いただき、検収書を受領いたしましたので、お知らせいたします。

当社と塩野義製薬株式会社は、本資本業務提携を提携第1フェーズとして、ヒト用感染症予防ワクチンをはじめとする創薬に関する基盤技術整備、ならびに自社開発パイプラインの一部及び自社開発パイプライン以外の新規開発候補ターゲットを当初の開発候補品として選定し基礎的研究を共同で推進しております。当社は、本資本業務提携契約に従い、塩野義製薬株式会社から業務提携開始日より2年間にわたり、半年毎に当該期間に係るあらかじめ定めた成果の達成状況に基づき、一定額のマイルストーンフィーを収受することとなっております。本資本業務提携に係る開発マイルストーン条件は4回に分けて設定しており、今回において達成が確認されたのは、最後となる第4回目の開発マイルストーン条件であります。当該第4回開発マイルストーン条件の達成により、塩野義製薬株式会社との提携第1フェーズに係る基盤技術整備に関し、当初の目的を概ね達成いたしました。

今般確立した基盤技術は、当社が創出を目指す次世代ロジカルワクチン*をはじめとするバイオ医薬品の原薬となるタンパクを製造する、遺伝子組換え技術を活用したワールドワイドに展開可能な技術プラットフォームであります。今後、第1フェーズで並行して進めてきた開発候補品の基礎的研究の成果などから選定される開発パイプラインに対して当該基盤技術を活用し、本格的な開発段階への移行を目指してまいります。

当社は、当該第4回開発マイルストーン条件の達成確認に伴い、2019年12月期第4四半期において、塩野義製薬株式会社より、一定額のマイルストーンフィーを受領いたします。この結果、2019年2月14日付で公表しました2019年12月期における売上予想を達成する見込みであります。

本資本業務提携に係る業務提携の詳細内容につきましては、2017年10月31日付にて開示した「資本業務提携並びに第三者割当による新株式及び第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の発行に関するお知らせ I. 資本業務提携の概要 2. 本資本業務提携の内容 (1) 業務提携の内容」をご参照ください。

【今後の見通し】

当該第4回開発マイルストーンフィーに係る収益は、2019年2月14日付で公表しました2019年12月期における通期業績予想に織り込み済みであり、業績予想の変更はありません。

当社は、基盤技術整備と並行して推進している開発候補品の基礎的研究が進展していることから、当該基盤技術に基づく感染症予防ワクチンを対象とする開発品の本格開発を目的とした、提携第2フェーズへの移行をすみやかに実現すべく、塩野義製薬株式会社との協議を進めてまいります。

以上

*次世代ロジカルワクチン：当社が目指す次世代ロジカルワクチンとは、これまで10年以上に亘り開発してきたバイオ医薬品技術プラットフォームの各種知見・ノウハウ・技術を活用して、ヒト用感染症予防ワクチンをはじめとする次世代バイオ医薬品の原薬となる組換えタンパク抗原の製造技術、アジュバント（免疫増強）技術及び製剤/ドラッグ・デリバリー技術を統合したワクチンの開発コンセプトです。次世代ロジカルワクチンにより、対象となる感染症に最適な高い有効性及び高生産性の実現を目指しています。すなわち、製剤/ドラッグ・デリバリー技術を活用して、対象となる感染症毎に最適な免疫を誘導することにより、高い有効性を実現することが可能となります。また、アジュバント技術を活用して、より少ない抗原量で高い有効性を実現するのみならず、組換えタンパク抗原を効率よく生産する技術により、当社の現生産体制にて市場への供給量を確保することが可能になるとともに、コスト低減に寄与することが期待できます。